

## 平成25年度第2回静岡市生涯学習推進審議会について

**日時** 平成25年12月5日（木）14時から16時30分まで

**会場** 葵生涯学習センター 3階第31集会室

**出席者**

【委員】（11名）

猿田委員、渋谷委員、菅野委員、池川委員、弓削委員、林委員、内野委員、青野委員、杉井委員、日野委員、吉田委員

【事務局】

生涯学習推進課：望月課長、川崎統括主幹、杉山主査、藤本主任主事

【オブザーバー】

教育総務課：海野統括主幹

**欠席者** 磯山委員、中野委員、飯塚委員

**傍聴者** 0名

**議題**

- 1) 市民意識調査速報結果
- 2) 新・生涯学習推進大綱骨子案

**会議内容** 下記のとおり

**概要** 事務局から速報結果の報告及び大綱案として「個人の自立、絆づくり、地域づくり」の3点を論点とした骨子案を提示した。会議の進行はワールドカフェ形式で行い、テーブルごとに分かれて、骨子案の審議を行った。

**論点ごとの整理**

### 1) 個人の自立について

○社会的・職業的自立

- ・職業に就くための教育 →どんな仕事があるか、職業を通して社会を見る。
- ・子どもも、「小さな市民」という視点で尊重すべき個人。子どもも半分学び、半分社会に向いている。
- ・人により生き方が違い、十人十色のライフコースがある。それらすべてに対応したライフステージにおける学習となると、すごいことになる。自分に対するイメージ、「自分自身を知る」ことが、ライフステージにおけるベースとなる。

○「生活的自立」

- ・日常生活の中にしっかり根付くのでなければ、生活的自立とは言えない。
- ・会社社会で鍛えられてはいるが、家庭で、地域の中では何もできない、しない人が生活力全体の能力を付けるためには、何が必要かを考える必要がある。

○「精神的自立」

- ・定年後の次の目標としての生きがいづくり
- ・家族を看取った後、一人暮らしになった人への精神的フォロー
- ・（閉じこもりがちな人が）社会に出るためのフォロー

そのために何が必要かという視点を持つべき。

○学びのセーフティーネット

「弱者性」(障害、外国人、失業、貧困、IT、高齢者)に、情報が行きわたるために、何をすべきか。ITによる情報収集に頼らざるを得ない人(時間がない、外に出れないなど)、紙媒体に頼らざるを得ない人(高齢者他 IT が苦手、使えないなど)さまざまな条件を抱える人に対する相談窓口が必要である。(人と人で)

### まとめ(補足)

- ・「ライフステージ」「ライフコース」ニーズに応じた学びの機会の提供、学びのセーフティーネット
- ・個人のオールマイティを前提に構成を考えると苦しくなる。(オールマイティが良しと考えがち)何か1つ得意なものを伸ばして、他者とつなげられ、そこから自立していく。
- ・大人になってから弱い部分を何とかしようというのは難しい。弱い部分を認める(自分も他者もお互いに)ことが自立につながる。
- ・子どもも大人も教育、学ぶということは同じ“他者を認めること、尊重すること”であり、違うのは、その方法だけである。自立は、個人で育つものではなく、関係の中で育つものである。
- ・「支えること」「補うこと」が自立の阻むものではなく、自立を助けるものである。
- ・きっかけづくり、場の提供から次にどうするか、どうつなげるのか。
- ・趣味をライフワークに転換させるために生涯学習はどのようにするか。ライフワーク＝地域貢献の活動に繋がると、社会の一員、公共的な立ち位置となる。

### 2) 絆づくりについて

つながりってどんなものがある？

- 監視・束縛・強制はつらいーでも見守り・助け合い・つながりは必要
- 横のつながり(交流センター・生涯学習センター)街中、地域の中にもつながりはある
- ネット(ネットは広範囲にはつながれるけどネットだけはこわい)・趣味のつながり・地域や家族のつながりもある(それも含めたゆるやかなつながり)
- 会社や地域やいろいろな場を持つ人が、生涯学習の場を通じて、いろんな場とつながっていくことが重要(生涯学習を中心に効果が波及していく)

つながりを広める・つながりをつくる(いろいろな種類のつながり)

- あらゆる対象を考えた多様なつながり※もっと多様に、学生、働いている人もいろいろな人が関わるつながり
- そのためには、**コーディネーターが必要!**  
<リーダーではなく、つなぐ役目の人を育てることも重要>
- コーディネーター(相談役)の働きかけ
- いろんな場のつなぎ役が必要・コーディネーターのためのつながり会をやる・つなぎ役同士の交流
- どこから情報を得ればよいかわからない。そのための確な情報を提供・集約する必要がある。

顔が見れる・自由に集まれる場としての居場所は大切!

見える場!場の見える化!

- 居場所としては、クローズした施設ではなくもっとオープンな場所が必要(カフェ等)  
(いろんな人が自由に、気軽に、ぶらっとちょっと話せる、歩いていけるくらい、オープン、やってる様子が見える、誰かがいる)
- 場に出てこれない人のために伝える仕組み(アウトリーチ)
- 人材を活かすためのサポート(情報提供)
- それぞれに出番を作る(みんなに出番がある)

- 定期的に集まれる仕掛け
- 地域の局所的なリーダーがなんとなく集まれる場所
- 共通の好きが集まる
- 種になる団体をつくる（ものづくり、手仕事、..）

### みんなの出番づくり

身近なつながりをもっと増やしたい

- つながる方法があれば・・・（接着剤としての生涯学習＝お祭り、出番、役割づくり・・・）
  - 地域にいて、時間のある層＝学生・主婦・高齢者（でも同じテーマでつながりにくい）
- 絆が希薄なのは、共通するテーマがないからではないのか。

### 3) 地域づくりについて

地域づくりとは、課題解決を行う土壌づくりであり、多様な地域の課題を発見する視点が必要である。

・静岡は市域が広く、そのため地域性は多様（街中、中山間地等）である。

そこで ・市外から流入してきた新しい市民の視点の活用 ・地域間交流による相対的な視点

地域づくりの戦力となる人材は・・・

#### ①子ども

子どもを地域に引っ張り出す・子どもをもっと活用する！（子どもを活用＝学校、子ども会・・・）

子ども・大人双方に効果が出る

夏祭りなどのイベント（非日常）子どもの特技（ジャグリングなど）を活かし、参加してもらう

#### ②主婦、高齢者、学生など時間があり、地域に昼間いる層の活用

#### ③シニア世代（60代男性）は大きな戦力！

中高年から地域デビュー講座！中年世代から地域デビューの準備をする

地域づくりの仕掛けとして・・・

イベントは非日常だから、日常的な地域づくりの仕組みもいる =それにはキーマンとなる人が必要

キーマン地域づくりのための人材養成＝コーディネート、実働部隊、声かけ役、コーディネーター、サポーター、集落（地域）支援員・・・となれる人材

そこにシニア層を活用！！

○キーパーソンの地域での居場所づくり（施設や、庭先、商店街、スポ少など多世代が交流できる絆づくり）

### 日常的に地域と関わる機会

○交流する場を意識的に作ることも大事！